校友時報

平成4年3月7日
編集人兼発行人
秋田県能代市高瑪2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

きょう（第44期生 325名）卒業式

未来を築く人材に

今日、十時から能代高校新制四十四回、旧制能代中学時代から数えて六十二回目の卒業式が行われる。今日は男子二二四名、女子一〇一名、計三二五名に卒業証書が授与される。女子が百人を超えるのは、本校史上初めて。昭和二十三年度の新制第一期から数えて、本校の卒業生は累計一万三千三百二十一名となった。

今日の式には卒業生や在校生、父兄、教職員などの他、来賓として畑澤潤一県教育委員長をはじめ、たくさん方々が出席される。PTA会長、同窓会長からは祝辞をいただく。

卒業証書は代表の三年G組の畠山拓治君に授与されることになっている。

また送辞は生徒会長の桜井博文君、そして答辞は前生徒会長の畠山知也君がそれぞれ述べることになっている。

今年の卒業生は、大学受験者数が過去最高という年に遭遇したにもかかわらず、よく健闘しており、三月六日現在で延べ一四六人の合格が決まっている。

しかし国公立大学のうち試験の終わった前・A・B日程の結果はまだ発表になっておらず、C日程、後期日程は今月末日から試験が始まるため、三年生にとって四月上旬までは、まだ心の休まらない日が続く。

卒業生がそれぞれの進路において、「松陵健児」としての意気に燃え、広く国の内外で未来を築く人材として大活躍されることを希望したい。

校章を背に立つ自在の像

19名に皆勤賞

皆勤賞の受賞者は、次の十九名である。

A組　保坂靖夫、村松章子
B組　菊池耕徳、工藤政美、松嶋信幸、石戸谷園子、細田美和子
C組　神田友成、成田武寛
D組　高田小百合
E組　安田智也
F組　佐藤博道、見上高志、堀井智昭、勝永祐康、工藤広幸、舘岡泰樹、船山毅、山本匡昭
G組

皆勤賞は代表して細田美和子さんが受け取る。

紅白幕を寄付

在校生からはコーヒーセット

卒業生は、今日の日の記念品として紅白の幕八枚（三十万円相当の品）を学校へ贈ってくれた。

また今年の生徒会からの卒業記念品は、コーヒーカップ、受け皿、ミルクポット、スプーンの四点セット（写真）が贈られた。さらに同窓会からは、恒例の校章入りネクタイピンが贈られた。

二年生の着用も許可

新制服の詳細決まる

本紙先号で紹介した新制服に関する詳細が決まった。当初新一年生から着用するとしていた方針は、現一年生の強い要望で、新二年生にも着用が認められた。

新制服は、生徒や保護者、またその他の学校関係者にも人気は上々である。しかし学校としては、現二年生の場合は着用期間も短く、経済的な負担も考えた上で現在の制服を着用することとした。また現一年生については、生徒・保護者へのアンケートの結果着用希望の声が多数だったため検討されていた。

その最終的な決定と詳細の説明のため、二月二十五日一年生女子を対象として、制服説明会が行われた。

その時の説明によると、現一年生については「制服が二種類ある」こととし、どちらを着用するかは生徒・保護者の選択とすることになる。ただし新制服を着用した場合、それ以降は現在の制服は着用せず、また現在の制服を着用している生徒でも、新制服を着用したい場合はいつでもそれを認めることとしている。

髪型等にも指導

また、新制服着用に伴い、ストッキングは肌色、ソックスを着用する時は白で、ハイソックスの着用は認めていない。それに制服自体がボーイッシュなイメージであるためにそれに似合った頭髪にするなど種々の規制も説明された。

新しい制服の制定を機会に、生気はつらつたる学校生活へつなげて行かせたいとする、学校の意向が感じられる。

新しい制服は2年生も許可

能代高校の伝統や目的・地域社会で果たす役割などを考慮したという新制服が完成した。この制服は本校の全くのオリジナルで、「知性と清潔感」を強調しているという。

求められる意識高揚

新制服の説明会の中で校長先生は、「本校は女子生徒の数が増加している。その中には自由な格好ができるからといった考え方で入学してくる生徒が、少数ではあるがいるようだ。本校が共学になった当初、女子はほんの一握りであったため大目に見られていたところがあるが、一学年百人を超えるようになった現在、これまでの女子の特権のようなものは一切廃止し、この四月からは、共学校としての校則として厳しく指導していく。能代高校は勉強と部活動に励む場であり、飾りたてたり、それを見せる場ではない」と話された。

従来の制服から新制服に変わることは、単に夏場の悩みの解消や、現代風なイメージにしたというだけではなく、女子生徒の学習を含めた生活全体の意識向上が求められているようだ。

生徒会費

値上げを提案

800円から1,300円に

総会で承認見込み

本校の生徒会予算は、ここ数年の間に毎年、PTAの各後援会からの補助金の削減や諸物価の値上げ、消費税等のため、次第に窮屈になってきていた。また主として運動部の活動経費や旅費の支出増も加わって、来年平成四年度には、生徒会の活動全体に支障が出てくることが予想される事態となった。

生徒会執行部では、来年度予算に対する各部からの請求予算額を集計する過程で、値上げを含めた画期的な対応が必要と判断し、具体的に検討を進めてきた。

◎生徒会費値上げに関わる数字

平成3年度予算の収入総額	15,079,373円
平成4年度予算の収入見込総額	10,887,580円
差引減少額	4,191,793円
（主な減少額の内訳）	
収入減　教育後援会からの補助金打ち切り	500,000円
収入減　体育後援会からの補助金打ち切り	1,000,000円
収入減　平成3年度からの繰り越し金の目減り	628,885円
支出増見込	約1,850,000円

値上げを審議する生徒委員会

四百万円の不足

執行部の計算では、上の表に示したように、来年度は、これまで補助金として入って来ていた教育振興会や体育後援会からの補助が打ち切られることや、今年度からの繰り越し金の目減りによる収入減、また、来年度活躍が期待される運動部の経費、それに伴う応援部の旅費、文化部も含めた各部部費の漸増などによる支出増が予想されることから、今年度よりも四百万円の予算が足りなくなる。

これでは生徒会の活動全体に支障が出てくる恐れがある。

執行部は、全校生に「生徒会通信」で実情を広報した上で執行部会で検討を続けて来た。しかし、繰り越し金の不足が、来年度一学期に行われる県北大会、全県総体の選手派遣や、生徒会最大の行事の能高祭の実施に大きな支障をきたすこと、来年度は、活躍が期待される部がいくつもあること、そして、また、『文武両道』の精神を十分に発揮して行くためにも生徒会活動の基盤を固める必要があるとの観点から、生徒会費と生徒会入会金の改正案を提案することに決定した。

入会金は二倍に

二月二十一日の生徒委員会では、生徒会費を月額、八百円から五百円アップの千三百円に、入会金を千円から二倍の二千円にすることが提案された。

この改正案で試算すると、第一次査定に基づく来年度の予算案を千六百万円としたとき、二百万～三百万円の黒字が見込まれることとなる。これは今年度新設した「運転資金」に充てられ、平成四年度以降の諸活動や、将来の物価の上昇にも対応できると執行部では考えている。

この案を各クラスで話し合うこととして、二月二十五日から三月五日までを討議期間と定めた。各クラスではロングホームルームその他の時間に話し合いが行われており、明後三月九日には臨時生徒総会を開いて、全校生徒の承認を求めることになっている。

各クラスの討議では原案に賛成する空気が強いようであるが、執行部では、値上げ案が通らなければ来年度の活動が危ぶまれることから生徒会員の理解と協力が得られるよう、臨時生徒総会の準備を進めている。

今回の値上げ案が承認されると、本校の生徒会費は八年ぶりに改正されることになる。

涌点

夢を持つこと

▼今年の大学入試も大詰を迎えた。最近の大学入試や高校の入試の情報に、数年前に受けた高校入試の様子やこれからの入試のありさまを思いめぐらせた人も少なくないだろう。▼試験と聞いて嬉しそうな顔をする人は滅多にいないが、試験とは本来、学力を検査するためだけではなく、より勉強を楽しくするためにあるものなのである。試合や発表会のない部活動を考えてみればよく分かるだろう。他者との競い合いや自分を表現することで、自分の優れているところや反省すべき点が判明し、日々の練習に張り合いが生まれる。▼ある現代社会の参考書に、次のような文章が載っていた。「理想を持つことは青年の現実を変える。夢や理想を持てば、青年の内なるものが青年を突き動かす。夢も理想も持たなければ、青年の外側にあるものが青年を動かすことになるのだ」。私たちは果たして「内なるもの」に動かされて勉強しているだろうか。惰性に流されたり、試験のためにその場しのぎの勉強をしてはいないか。自分の夢を実現するための勉強であれば、自らの内なる力を感じる。より良い大学に入るためだけの勉強であれば、それは外からの力に流されているにすぎない。▼大学入試や就職試験も含めて、学生時代には数多くの試験を経験する。その結果に、喜んでもらかれ過ぎたり、悲しんでも失望しないことが大切だ。どんなときも自分に問いかけてみよう。「夢を持っているか、そしてそれに向かって努力しているか」と。（W）